

会 議 録

会 議 名	令和4年度第1回山陽小野田市子ども・子育て協議会
開 催 日 時	令和4年11月11日（金） 18時30分～20時10分
開 催 場 所	山陽小野田市役所3階 第2委員会室
出 席 者 （敬称略）	伊藤一統（会長）、吉岡智代（副会長）、大和昇太、柳井由美子、竹田佳枝、植木朋子、佐古幸恵、静間佳代、山本時弘、草田和枝、有田光枝、綱井健哲、松村孝子、岡村浩美、山本眞理子（15名）
欠 席 者 （敬称略）	野村祐希、上田隆史、渡邊和憲、久保麻美、長谷川万久（5名）
事務担当課 及び職員	福祉部 吉岡忠司（部長） 子育て支援課 長井由美子（福祉部次長兼課長）、野村豪（課長補佐）、 重村亮太郎（保育係長）、西村真愛（子育て支援係長） 健康増進課 尾山貴子（福祉部次長兼課長）山本真由実（健康増進係長）
会 議 次 第	1 開会 2 事務局員自己紹介 3 出席委員数報告（会議成立の報告） 4 議事 1 第2期山陽小野田市子ども・子育て支援事業計画の令和3年度実施状況について （1）教育・保育提供体制の充実 （2）地域子ども・子育て支援事業の充実 2 第2期山陽小野田市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて 3 令和4年度子育て支援課主要施策について 5 その他 6 閉会
配 布 資 料	・資料1 令和4年度第1回山陽小野田市子ども・子育て協議会資料 ・資料2 第2期山陽小野田市子ども・子育て支援事業計画（令和4年度改訂版）（案） ・子ども・子育て支援法（一部抜粋） ・山陽小野田市子ども・子育て協議会条例 ・山陽小野田市子ども・子育て協議会名簿 ・座席表
傍 聴 者	なし

議 事 内 容

議事1、2	<p>1 第2期山陽小野田市期子ども・子育て支援事業計画の令和3年度実施状況について及び2 第2期山陽小野田市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて資料1、2に沿って事務局から説明</p>
	<p>【主な質疑】</p>
(委員)	<p>児童クラブについて、提供が需要を満たしていない部分があるが、この見直しで市として何か対策を講じたり考えていること、あるいは見込みを少し多めに見ているというようなことがあれば追加で説明してほしい。</p>
(事務局)	<p>小野田児童クラブは令和5年度から1単位増えて定員が40人増えるため、令和4年度までの待機児童が解消できる見込みである。高千帆児童クラブも1単位増やす予定で、今小学校内に施設整備している。施設整備後は全体で4単位になるため、高学年まで受け入れ可能と見込んでいたが、高千帆校区内に新築家屋が増え、当初見込んでいたよりも児童数が大幅に増えたため、低学年までの受入れしか叶わないだろうと見込みを修正した。表では高学年までの量の見込みも入れているため、その分待機児童が出るという数字になっている。校区外での受入れが難しいため、少しでもクラブが開設できるような空き家、施設等を探したいと思っている。厚狭児童クラブについても定員を超える希望が出ており、1単位でも増やすことができないか、こちらについても校区内の空き家、空き施設を探したいと思っている。</p>
(委員)	<p>場所の問題もあると思うが、支援員の不足、確保が難しいということも一般的には問題としてあるがどうか。</p>
(委員)	<p>社会福祉協議会で各児童クラブの運営をしているが、確保できない、充足しているときもあるが、不足しているときもあるという微妙な状況であり、長期の夏休み、冬休み等は朝から夕方になるので、この時期が特に足りない。臨時的に大学生のアルバイトなど募集してもなかなか補い切れないところがあり、支援員の安定的な確保に関して苦慮している状況である。</p>
(委員)	<p>保育の3号認定に関しても不足がでていますが、人材不足が大きな原因か。それともハードウェアの部分が不足しているのか。</p>
(委員)	<p>私立保育所を運営しているが、育児休暇明けの方とか、急に入所したいと申し出されることがあり、職員を配置できないため難しいことがある。パートさんをお願いして何名か受入れられるようにしている。保育士1名につき0歳児3名という保育士の配置基準があるため、保育所に入所させたい場合は、事前に申込みをしないといけないが、保護者の方が認識されていないのではないかと思います。</p>

(委員)	山陽小野田市の保育所の整備状況について教えてほしい。
(事務局)	公立保育園については、計画を策定した時点では5園あったが、山陽地区の保育園を統廃合し、新しくねたろう保育園を1園開園し、津布田保育園、出合保育園及び下津保育園を閉園し、3園とした。私立保育所においては、令和3年度に西高泊にあった西福寺保育園が閉園し、それと同時にこの令和4年度に入れ替わる形で、すぐ近くの場所に西高泊保育園という新しい保育所が設立された。今後については、来年度こぐま保育園が施設整備をし、今まで小規模保育事業所で2歳児までのお子さんを預かる施設だったが、令和5年度から認可保育園となり5歳児まで保育をしていただく施設になる。
(委員)	資料2の6ページに(4)産休後及び育休後の教育・保育施設の円滑な利用の確保について記載がある。周知を含めて、システムなど改善の余地があるという気もするが、一番は結局、保育士を確保しておかないとどうしようもないから、初めから少し需要を見込んで、加配できるような予算を投下することも必要ではないかと思う。
(委員)	新しくこぐま保育園が認可の予定という話をされたが、見直し案を見ると3号認定で不足が生じている。定員の問題として、3号認定に対応した保育体制を強化することが、急務と思うが小規模保育所などは特に増えてない状態か。
(事務局)	小規模保育所は現在2園あるが、増減ない状況である。やはりどうしても育休復帰により0歳児が年度途中からという希望が多いが、保育士の配置基準が厳しいのでなかなか職員の増員も出来ないというところで、どうしても0歳児の待機が年度末にかけて増えてくるという状況になっている。私立も公立も園全体としては、定員に余裕があるが、手厚く保育士を配置しなければいけないということで、なかなか0歳児、1歳児、2歳児の受入れが進んでないというのが現状なので、やはり課題は委員御指摘のとおりその辺りの保育士の確保が1番大きな課題であると思っている。
議事 3	3 令和4年度子育て支援課の主要施策について事務局から説明
(委員)	<p>【主な質疑】</p> <p>高千帆児童クラブを小学校内に増設したことにより1クラス増え、高学年までの受入れ可能と見込んでいたが、予想以上に住宅が増えたため、低学年までしか受入れができないといこうとが見込まれているが、その後、高千帆地区について児童クラブの増設の計画とか、方針など他に何かあるのか。また施設を設置したときに駐車場の確保も配慮いただきたいと思う。</p>
(事務局)	現在のところ公設で新しく建築ということは予定しておらず、既存の施設を利用し増設が可能であればと思っている。また教室の確保だけではなく、子どもがクラブに来て遊ぶ場所の確保、保護者の送迎のための駐車場の確保な

	<p>ど教室のスペースがあればいいというわけではないため、場所の確保には大変苦労している。いただいた御意見を参考にしながら、少しでも多くの児童を受入れられるような場所を選定したいと思っている。</p>
(委員)	<p>子育て支援アプリについて、直接相談窓口へリンクする機能はあるのか。悩みがあるときの相談場所や地域の情報もここから発信されると、地域でサロンなど開いてる人たちの周知も広がりいいのではないかと思う。</p>
(事務局)	<p>このアプリの機能ではないが、山口県が実施している「子育てA I コンシェルジュ」をリンクしており、こちらでは質問を入力するとたくさんある質問の中から、適切であろうという質問に対する回答をA I が答えてくれる内容となっている。また相談窓口やその他子育て支援に関する情報もアプリ内に載せている。</p>
(委員)	<p>養育支援訪問事業で、事業を行い見えた課題や諸問題、及び相談体制について教えてしてほしい。さきほどの放課後児童クラブの例でも、ハード面が克服できたとしても駐車場、指導員の人員不足などの問題があり、なかなか行政だけでは解決できないことがあると分かったので、協議会の委員と市と一緒に取り組んでいけることは何か、協議会のあり方を検討してもよいのではないか。</p>
(事務局)	<p>養育支援訪問事業の対象者でどのような諸問題があるのかについて、それぞれのケースによって多岐にわたっているのが実情である。例えば、未婚で妊娠され、結婚せずに出産し1人で養育されるケース、また両親共に療育手帳をお持ちで育児能力面で少し支援が必要なケース、その他に養育者側ではなく、お子さんの発達面で心配な部分があるというケースもある。また何か一つの問題だけではなく経済的な問題やDVが付随するケースなどもある。ケースにより諸問題も異なるため、こういうケースが多いとかそういう統計はなく、上がってきたケースに応じてその都度対応しているのが現状である。その中で、健康増進課だけでなく、いろんな関係機関と連絡、情報共有を図りながら対応している。またケースによってはケース検討会議を開いてそれぞれの役割の明確化を図り、関わっている。</p>
5 その他	<p>特になし</p>